



「日本茶」の花形輸出品
から輸入依存へ

寺本益英

海外販路開拓のために政府と業界は種々の方策を打ち出したものの、明治末年に至ると、輸出に衰退の兆しが現れてきました。最大の市場アメリカにインド・セイロン紅茶が目覚しい勢いで進出し始め、国内的にも軽工業の発展

同様にミルクと砂糖を混せて日本茶を飲んでいたようです。農商務省のある海外実業練習生は「日本茶ヲ試ミタル米人ハ其香氣ノ美妙ナル点ヲ愛ス、然レドモ米人ノ常トシテ牛乳及砂糖ヲ混用スルガ故ニ余り美妙ニ過ギタル日本茶ハ其特有ノ香味水色ヲ失シ遂ニ茶ナルカ牛乳湯ナルカ区別スルニ苦ムニ至ル」と述べ、日本茶特有のデリケートさをアメ

普段何気なく飲んでいるお茶ですが、幕末開港を契機に生糸と並ぶ輸出商品として脚光を浴びていた時代がありました。その事実に意外性を感じ、私の茶業史研究が始まりました。

で綿糸や綿織物が台頭し、重要性が低下してきたためです。こうして日本茶の性格は花形輸出商品から国内向け嗜好飲料に変わったのですが、経済発展の初期局面において、強力なエンジンの役割を果たした点は評価できます。

2001年の統計によれば、わが国の緑茶生産量は約9万トン、輸出量はわずか600トンに対し、輸入量は1万8千トン弱に達しています。緑茶ドリンクの爆発的ヒットに歩調を合わせて安価な中国産の緑茶の輸入が急拡大し、今や輸入超過国になつた…。明治期の事情を思えば信じがたい変化です。それとともに、お茶本来の芳しい香りと深くさわやかな滋味を知らない若者が増え、もてなしの心が失われてゆくのも残念な気がします。日本茶業を活性化するには、お茶の魅力をまず日本人が認識し、文化的な付加価値をつけて外国にPRすることが大切です。その際業界の先人がどのような努力と工夫を行なつたか、いま一度振り返る必要があります。

神戸三田キャンパス(KSC)
〒669-1337 兵庫県三田市学園2丁目1番地
●総合政策学部●理工学部



オープン・キャンパス開催

受験生に関する西学院大学を紹介する「オープン・キャンパス」を西宮上ヶ原キャンパスで7月31日開催。入試説明会、人気予備校講師による「英語の勉強法」講演、学部別ガイダンス、留学説明会、英語インテンシブ・プログラム模擬授業、キャンバスツアーなどを実施します。